

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500766		
法人名	株式会社アイ・ユーネット		
事業所名	グループホームとまり木名東		
所在地	名古屋市名東区猪子石3丁目113番地ワークステーションビル1F		
自己評価作成日	平成27年 2月 9日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2371500766-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長久山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さん一人一人に合ったケアが行えるように日常の会話や生活の動作などから望む事や、出来る事などを把握し要望に答えられるよう、常にコミュニケーションをとるように心掛け、リクエスト料理・おやつ作り・漬け物作り・買い物・日帰りの旅行など職員と一緒にいたり、出掛けたりすることで日々の生活を安心して楽しく過ごして頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・今期、長い間開催のなかった運営推進会議の第1回目を開催することができた。管理者が着任してから「実現しよう」と決めたことが現実となった。また、管理者の地域との付き合いを広げていきたいとの強い思いは職員の提案にも反映されており、「週1回の外出」で地域の人、地域の場所での交流を広げている。
 利用者本位の支援をしており、職員は利用者一人ひとりの話をよく聞き、思いや要望を実現をしている。入浴も時間に縛られずに自由に入浴できないか検討をしている。
 利用者がその人らしく暮らすために、ホームができることを着実に実行し、利用者本位の支援に邁進しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛を持って」であり、支援方針へのおとしこみをし、ミーティングで理念のあり方を共有し、フロアに提示し、常にサービスに対する意識を持つように努めている。	理念に基づき、利用者本位の介護を目標としている。エレベーターの使用、入浴日数、外出等利用者の自由とし、職員も意識を統一して取組んでいる。また常に理念をカードで携帯し、振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で近所の花屋さんなどからあいさつを頂いたり、交流を深めている。野外レクのBBQなどでは近所の子供達にも声かけし参加して頂いたり、定期的にボランティアの方にも来て頂いている。	町内会に加入して地域の情報を得ている。地域の小学校からは音楽祭等行事の招待を受け、PTAの支援も得られている。買い物や喫茶外出には地域資源を活用し、さらに地域に溶け込めるよう取組んでいる。	職員から提案として週1回の外出支援が上がっており、さらなる地域の社会資源の活用期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物や地域行事などを通し、地域の方々と交流したり、お話をしたり、理解を深めるように努めているが、施設から地域の皆さまに発信できる様に検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度に第1回運営推進会議を開催し、継続が出来るように参加の呼びかけなどに努めています。	家族代表、区役所保護課職員の参加を得て、第1回目の会議を開催することができた。事業所の現状を報告し、参加者からは自由な発言が得られた。管理者は年6回の開催を目指し地域の参加も模索している。	定期的な運営推進会議の開催が望まれる。また、地域住民の出席等、多種多様な目で運営推進会議が運営されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取組んでいる	運営上の疑問点や他施設の対応方法などの市町村との意見交換により、サービスの質の向上に努めている。独自に発行している、独自のとまり木新聞をお渡しして、活動状況等を把握していただく様にしている。	区の担当者とは定期的に連携を図っており、運営推進会議にも参加している。市や区からの研修案内には積極的に参加し、更なる連携が深められるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行い、玄関ドアを開放し自由に庭に出入りが出来るようにしている。また1階と2階へのエレベーターでの移動も自由に行っているが、危険防止の為に職員が付き添い見守り強化に努めている。	チャイムで利用者の出入りの安全を確認するが、一切の施錠をせず利用者は自由に過ごしている。言葉による拘束にも気を配り、説明して理解を得られるよう心がけている。拘束と安全確保の違いについて職員も理解し、管理者も徹底の意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を実施し、虐待について正しく認識し、事務所に掲示をして、スタッフ同士お互いコミュニケーションを図り、負担軽減・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用されている方も、お見えになりますし、必要な方には、働きかけをして活用できる様に支援している。今後は、より周知徹底していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読むだけでなく、具体的・事例をあげて説明して、ご理解・安心して頂ける様に努めている。不明そうな事、疑問点を出して頂きやすい雰囲気作りをしている。信頼関係を大切に些細な不安などを見逃さないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事ごとや訪問時は、直接お話しできる機会などで、意見等を頂ける様にアンケートなども実施している。その他3か月に一度介護計画について、必ず意見を頂ける様な取り組みをしている。	家族の来訪時や電話で小まめに連絡をとり、家族とコミュニケーションがとれるよう積極的に取り組んでいる。家族アンケートでは家庭的な雰囲気に喜びの声が寄せられ、利用者や家族の満足度は極めて高い。	イベントや運営推進会議の家族参加を積極的に呼び掛けることを望む。協力的な家族が多いため、実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアの本質を考え、現場の自発性を最重要視し、意見箱を設置し、その内容をミーティングで活発な意見交換出来るように努めている。皆で決めた事等を共有し、運営に反映して皆で運営出来る様努めている。	現場上がりの管理者のため、職員とは良好な関係が築かれておりミーティングや申送り等で意見交換をしている。提案は即実行を原則とし、リスクについてはその場で話し合っている。必要に応じて個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場状況・勤務状況等を把握し、話す機会も設けて、考えている事、悩んでいる事、成果などを話す事により向上心に繋げている。労働条件も見直しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで日々のケアの目指すものなどを皆で共有できる様にして、皆で成長していけるように努めている。その他、外部の研修に積極的に参加できるよう努めて、ここでのレベルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で同業者とのグループワーク等で情報交換したり、他施設の行事ごとなどに出かけサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメント情報からご本人と共通の課題を見つけ、職員と同じテーブルでお茶を飲んだり、しながら、会話する機会をとれるように努めており、思いを話して頂けるように笑顔を忘れず、傍に寄り添い、会話の回数を多くし、ご本人が安心して生活できるよう気持ちを受け止めるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に耳を傾け、ご家族の思いも受け止める様に努めている。スタッフが情報を共有して、事例等をあげたりして、ご家族様が不安な点などをお話して安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か見極めて、出来ること・できないことを明確にして、他サービスの検討も視野に入れながら、検討して頂き、納得して頂けたら、ご本人の能力を最大限発揮できるようサービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「一緒に出来る事」を考え、個々にできることは、職員と、共に行って頂き、共感して頂いている。いっしょにやって頂いた時は、必ずお礼を言い、喜びや楽しみを感じながら、安心した生活を送って頂き、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族さまの両方で支援するよう心がけ、行事に参加していただいたり、面会時などに写真等を見て頂いたり、健康状態や生活状況などの情報交換しながら利用者さんが安心して生活できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問された方は、家族の一員としてお迎えする様にしている。ご本人様の経歴・価値観・性格など全てにおいて理解する様努めている。ご家族様以外のなじみの方などにも、手紙や写真を送付している。	家族の支援で馴染みの喫茶店や食事処などに出かけている。遠方の親戚が事業所を訪れ、昔話に花を咲かせている。編み物等趣味の継続も支援され、体力作りを習慣とする利用者は散歩を日課としている。	家族が遠方等、様々な理由で実現できない利用者に対して、ホームとして出来得る限りの対応に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんが孤立しないように職員が間に入りコミュニケーションを図る様に心掛け、レクレーションや行事などを通して交流がとれるように催しの内容や声かけなどに配慮して支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も、遊びに見えたり、電話等で状態経過を聞き、相談・アドバイスをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と一緒にお茶を飲んだり、雑談する時間を作り、また介助を行いながらも、思いや希望を聞いたり感じたりしている。意思疎通の困難な方でも表情や仕草などから察知出来るように、日々の状態把握に努め、利用者様の思いや意向に沿ったサービスが出来るようにしている。	利用者に寄り添い一人ひとりの意向を聞き取るよう努めている。介護記録には利用者の発した言葉を細かく記入するよう意識統一を図り、申し送りノートで情報共有し職員全員で個々の思いを探る取組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの生活歴等の情報提供が得られるように御家族に理解して頂き、事業所独自の用紙に記載してもらい、職員全員が把握し、本人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、コミュニケーションをとりながら、御本人のできることをみつけ、生活の中に取り入れる様に話し合いの場を設けたり、実際に行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度ケアプランに対する意見書を家族の方から頂いている。また面会時などに要望などを伺っている。毎月のカンファレンスで課題や支援のあり方などの意見交換を行い、定期的にモニタリングを行い、見直しを行っている。	毎月モニタリングを行ない、3か月に1回と状態の変化時に計画の見直しを行っている。家族は聞き取りの他、事前に意見書を記入している。職員ミーティングの決定事項も反映して計画作成をしている。	サービス担当者会議の開催が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等が介護記録表・介護日誌・申し送りノートに記載し、職員全員が情報共有を徹底して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのニーズに当施設で可能な事、グループホームならではの信頼関係を築いていく為に、コミュニケーションを図り、様々な可能性を全体で考え、実施し積み重ねて行く事で、利用者さんの満足の向上に繋がると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの方や、医療関係・地域の方々の飲食屋さん等、さまざまな方たちに支えて頂きながら支援できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面談時に馴染みの医師の確認・提携医療の説明・同意を頂いております。利用者様が気軽に医師に相談できる環境を整えるよう努めている急変時・ご家族の疑問点なども対応して頂いております。	月2回の提携医の往診と週1回の訪問看護の健康診断を受けている。医師、看護師とも24時間の対応が得られており、緊急時には訪問看護に相談、事業所の仲介で提携医に連絡をする等、情報共有に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護により、週一回の健康チェックを実施して頂きながら、情報共有し、疑問に思うことや相談等を密に図れるように努めている。また適切な受診や支援が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、入院回避の為、小さな変化も見逃さない様、努めている。入院になった際は、情報提供を積極的に行い、病院・提携医療機関等密に連携を図り、早期退院できるよう努めている。面会に行き、少しでも安心して頂ける様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況・他利用者様の状況に合わせて、主治医・訪問看護・施設・ご家族で話し合う場を設けて、主治医から医療的な見解をご家族に話して頂き、希望等をお聞きして、医療連携で可能な支援を明確にお伝えして、希望に沿うように努めている。段階的に話し合いの場を設けている。	利用者、家族の意向を第一に、医療行為が発生しない限り事業所でできる限りの対応をしていく意向である。重度化に向けて適切な時期に医師、看護師とともに家族と話し合い、最適な支援方法や移行先を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の際に応急手当を実施しており、日常で急変が起きた場合は、記録に出来るだけ詳細に記入して、情報共有するように努めている。また急変時や事故時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難誘導の方法・各役割の把握し、自力で避難ができない方に搬送練習等行っており、非常食等も準備している。	消防の立ち合いのもと年2回避難訓練を行っている。実際に夜間にも訓練を行い、2階からの非常階段には広い待機場所が設けられている。職員からは毎月訓練を行いたいとの提案があり、実施に向け検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの性格等を把握し、言葉使いや接し方に注意している。入浴や排泄・外出の際、声かけや誘導の順番に配慮する等して機嫌を損ねない様に配慮しており、ミーティングでも確認・共有し意識向上に努めている。	「利用者本位」が鉄則で、利用者の意向を一番大切に考えている。利用者の声を傾聴し受け止めるケアに意識統一して取り組んでいる。話しかける言葉は敬語を基本に、それぞれの心地よい会話を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との雑談やケアを行っている時に思いや望みなどを聞き、それをレクなどに取り入れ、好きな食べ物やおやつ作りを買い物から一緒に行き、気分転換を行いながら共に料理を行い楽しい時間を過ごしている。施設内での「自由」を見出す事は困難であるが、少しずつ小さなことからチャレンジしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の精神状態や健康状態を把握し、個々にあった生活の流れを支援しており、入浴を拒否された時などは無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物へ出掛け、ご自身で服を選んで頂き化粧なども自分で行ってもらっている。個性・精神の安定につなげて、服をおほめしたりして、楽しみの一環にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの希望する食事・おやつ・漬け物等を一緒に買い物に行き、食材を選んだり、皆で作ったりと楽しんで頂いている。定期的に施設前にてBBQを実施して、準備や焼き作業なども利用者さんと一緒に行い、ご家族さんにも参加頂いている	配食材を活用して手作りの家庭料理を提供している。月2回は利用者の希望のメニューを提供し、誕生会には手作りケーキでお祝いしている。利用者はテーブル拭きや食器洗い、食器拭き等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量や食事量のチェックを行い、不足がないように注意している。不足に関しては適切に補給が出来るように訪問看護師に相談をしたり、栄養補助剤や昔から好きな飲み物等で対応を行っている。また夜間でも水分が摂れるように、個別にやかんや水筒を持って頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけや見守りを行い、介助を要する方には汚れがないかの確認や舌や入れ歯などのブラッシング、ガーゼでの口腔ケアを行っている。インフルエンザが流行る時は特に気をつけ、イソジンなどを使う方がいい等をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の能力と排泄パターンを把握しながら、声かけ・見守り・介助を行っている。トイレ内が見えないようにドアを必ず閉めたり、スクリーンを設置し安心して利用して頂いている。利用中の有無が分かるように、色分けで札を付けている。	可能な限りトイレで排泄できるよう声かけ、誘導の支援をしている。個々の自立度にあわせて最適な支援ができるよう職員間で話し合って介助方法を決めており、声かけからも羞恥心への配慮が行き渡るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の日数を把握し、自然に排便できるように、食事の内容を考慮したり、おなかの体操をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調にも配慮し、拒否がある方も入って頂ける様に工夫して、声かけや誘導や入浴方法、順番も個々に合わせた支援に努め、フリー入浴日も設定して、希望の方に入浴して頂いております。温泉の素なども何種類か用意し、楽しんで頂いている。	週3回午後の時間帯での入浴を原則としているが、管理者は何の縛りもなく入浴できるようにしたいと考えており取組みを始めている。毎回入浴剤を使用し、一人ひとりのペースに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や運動後は、休息をとって頂き、日中活動して頂き、夜は十分に睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・量・作用などの把握をしながら、名前を声に出して確認を行い、方を切ってから手渡しや口の中に薬を入れ、飲み込みの確認を行っている。飲み忘れや状態の変化などにも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとり生活の中で合った役割を楽しんで頂き、満足感を持って頂いている。好みの飲み物を飲んで頂き、気分転換を図っている。日常から情報収集に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	健康管理に注意して、今しかできないことを大切に散歩・外出・喫茶店・食事等に外出している。定期的なバス旅行に出かけ、気分転換に努めている。	散歩や喫茶、買い物等に日常的に出かけており、車いす使用者も外気に触れる機会が減少しないよう配慮している。季節に合わせて梅、桜、紅葉の花見や、バスを使つての遠足などイベント外出にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々お金を管理して持たれている方は職員と一緒に外出の際に自由に使って頂いており、買い物・外出などの社会性の継続・喜びを目的としてお金を持って頂き、お支払頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは自由に掛けて頂いており、子機を使い、車椅子の方や、自分のお部屋でゆっくりと会話をして頂いております。手紙や年賀はがきもご自身で書いて頂くよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の衛生面や整備に努めている。各利用者様が落ち着いて過ごせる空間づくりに工夫し、壁にも季節感を取り入れている。その他、室温・光・湿度に配慮して心地よい空間になる様、日々配慮するよう努めている。個々に合わせたクッションや肘掛け、ソファなどにも配慮している。	リビングスペースとダイニングスペースが分けられ、メリハリのある生活が支援されている。リビングの掃除や模様替えは利用者も一緒に行い、季節を感じる飾り付けを施し明るく長閑に過ごせる空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごせるよう配慮したり、ひとりが良い方には、落ち着ける場所を提供している。気分転換に食事の席などにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使われていた家具や布団や写真・仏壇などを使って頂き、衣類のタンスなども出し入れしやすい様に名札を貼ったり工夫し、安心して生活して頂ける様に努めている。	比較的シンプルな部屋が多いが家族の写真や使い慣れた小道具を持ち込み、安心できる居室作りを支援している。利用者は日中も自由にエレベーターで居室とリビングを歩き来し、自室での時間を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体状況・周辺状況に合わせて危険防止・安全な環境づくりに努めている。		